

目 次

はじめに

第1章 「スポーツパフォーマンス」を科学する実践研究の必要性（福永哲夫）…………… 1

- ・ スポーツの意義
- ・ スポーツにおける主観と客観
- ・ スポーツにおける主観と客観をつなぐ研究
- ・ スポーツにおける実践研究の意義
- ・ 体育スポーツ科学の専門性
- ・ スポーツ基本計画にみられるスポーツ指導者の役割
- ・ 現在のスポーツ指導者のカテゴリー
- ・ おわりに

第2章 体育・スポーツの分野における実践研究のあり方と方法論（山本正嘉）…………… 12

- ・ はじめに－「実践研究」は価値が低いのか？
- ・ 実践研究が従来型の科学研究と対等の価値を持つ理由
- ・ 95%以上の確からしさを求めることで失われるもの
- ・ 為末選手の言葉
- ・ 実践研究に独自のパラダイムとは？－心理的存在、社会的存在、物理的存在という考え方
- ・ 科学とトレーニングとは「別物」
- ・ 工学部魂と体育・スポーツ学部魂
- ・ 従来型の研究は科学を、実践研究は科学「的」を目指す
- ・ 実践研究の定義とは「心理的存在を社会的存在にすること」
- ・ 実践研究の具体例
 - 1) 対照群がない場合にどう説明するか（長距離走）
 - 2) 危険率が5%以上の結果をどう考えるか（カヌー）
 - 3) 1名の事例から普遍性のある仮説を提案する（自転車競技）
 - 4) 戦術を可視化する（ウインドサーフィン）
 - 5) 選手の主観を可視化する（長距離走）
 - 6) 指導者の主観を可視化する（バレーボール）
 - 7) 武道における「気剣体一致」を可視化する（なぎなた）
- ・ 『スポーツパフォーマンス研究』が目指すもの
- ・ 論文の書き方の基本－事実と意見の峻別
- ・ 実践研究の解は一つには定まらない
- ・ 実践研究における論文の執筆と査読の仕方
- ・ 母国語で考え、書くことの重要性
- ・ まとめ

第3章 実践研究論文の具体的な書き方

第1節 バイオメカニクス・運動生理学の手法を生かした実践研究(前田 明)…………… 35

- ・ これまで自身が行ってきた従来型の研究と実践研究
- ・ 埋もれてしまった実践研究の思い出 (野球監督の試合中の心拍数)
- ・ 従来型の横断研究から実践研究への流れ
 - 1) チームのパフォーマンステストからその後の実践研究
 - 2) 条件を与えた動作の比較とその後の実践研究
- ・ バイオメカニクス・運動生理学の手法を用いた実践研究
- ・ まとめ

第2節 球技を対象とした実践研究論文のまとめ方 (高橋仁大) …………… 45

- ・ 実践研究を行うにあたって
- ・ どんな観点でパフォーマンスを評価するか (研究の枠組み)
- ・ 球技の実践研究を進める上での視点
- ・ 球技の実践研究を進める上での方法論と具体例
 - 1) 縦断的研究: 実践者の変化を長期的観点で整理した例
 - 2) 縦断的研究: 目標とする大会に向けた取り組みの成果
 - 3) 横断的研究: 対象とするスポーツ種目の現状を数値化
 - 4) 横断的研究: 対象とする集団の現状を数値化
- ・ おわりに

第3節 単一事例の実践研究論文の書き方 (金高宏文) …………… 59

- ・ はじめに
- ・ 仮説創出型論文の具体例
 - 1) 実践事例を振り返って、新たな仮説を提案する
 - 2) 失敗の克服から得られた実践知を可視化する
- ・ 仮説検証型論文の具体例
 - 1) 運動動作の違いの影響を検証した研究
- ・ まとめにかえて

【コラム①】 文献研究に関するQ & A …………… 66

【コラム②】 研究倫理・配慮事項に関するQ & A …………… 67